



つくば市議会が開催される

つくば市議会は9月3日から27日までの25日間と決まり、報告が8件、認定が7件、議案の56件が提案されました。

報告では、公益財団法人つくば文化振興財団の経営状況を説明する報告。

また、一般財団法人つくば市国際交流協会の経営状況を説明する報告がありました。

認定では、平成30年度つくば市一般会計歳入歳出決算認定。平成30年度つくば市国民健康保険特別会計歳入歳出決算認定。平成30年度つくば市下水道事業特別会計歳入歳出決算認定。平成30年度つくば市後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算認定。平成30年度つくば市介護保険事業特別会計歳入歳出決算認定。平成30年度つくば市下水道事業会計特別会計歳入歳出決算認定。などの認定案7件がありました。

決算特別委員会が設置される

議会改革に取り組む議会では、これまで3名以上の会派から委員を選出し、決算特別委員会を構成して議案審査をしていました。この程の議会活性化推進特別委員会での審議を踏まえ2019年の9月議会より議長（神谷議員）と議会選出監査委員（滝口議員）を除く全議員の委員会を設置した。

一般質問の通告議員通告順

木村 修寿 議員	大久保勝弘 議員
塩田 尚 議員	小久保貴史 議員
五頭 泰宏 議員	小野 康宏 議員
山中 真弓 議員	橋本 桂子 議員
滝口 隆一 議員	浜中 勝美 議員
木村 清隆 議員	塚本 洋二 議員
金子 かずお議員	黒田 健佑 議員
小森谷佐弥香議員	北口 ひとみ議員
皆川 幸枝 議員	須藤 光明 議員
山本 美和 議員	

つくば市 2019 年度一般会計補正は

一般会計補正予算では、TX 沿線地区での児童生徒数の増加に伴い小学校・中学校の用地取得事業債や子ども・子育て支援臨時交付金、保育所運営費負担金などの歳入、また歳出では、小学校・中学校の建設事業やプレミアム商品券事業など他を事業を含めて31億7713万2千円が増加されている。

斎藤環・筑波大教授に聞く

家庭内暴力、止める方法あり④

禁止ではなく拒否

しかし、「ダメ」と言うのは上から目線で、本人を刺激します。また「ダメ」は、しばしば誘惑の言葉になってしまうという点からも間違っています。「暴力一般が良くない」ということではなく、「私は暴力を振るわれたくありません」という拒否が必要です。しかし親の立場では、なかなかそれが言えない。親は子どもに一般論と常識を教え込む立場だという変な前提があるために、「してほしくないこと」も全部「禁止」の形になってしまう。しかし、禁止は通用しません。「禁止ではなく拒否」が必要です。

通報か避難が効果的

ただ、親は罪悪感などから、拒否しきれない。では、どうするか。暴力が続く場合は、覚悟を決め、通報か避難、いずれかを考えて頂きたい。別の言い方をすると、外部の視点を入れる、ということです。密室を壊して、外部の視点を入れてください。兄弟の婚約者が家で同居し始めたら、ぴたりと暴力が収まった、というケースがありました。第三者の目の前では起こらないのがDVであり家庭内暴力です。他人が家に入ってくると暴力は激減します。それを応用してみてください。

それでもおさまらないケースが一定数あります。そのときは、実際に実行してください。非常に激しい器物損壊やケガをするような暴力があるときは、通報です。誤解が多いですが、逮捕が目的ではありません。通常の家内暴力は、通報したと知るとぴたりと止まり、警察官が現場に駆けつけた頃には、収まっています。大事なことは、暴れると他人が家に上がり込んでくるという事実を知ってもらうことなんです。

――逮捕されてしまう心配はありませんか？

地元警察に、前もって相談しておくといいでしょ。根回ししておき、通報したらちょっと来てもらえるようお願いしておく。逮捕や入院は避けたい、とも伝えておいたほうがいい。とっさの判断で、警察から「入院しかない」と言われてしまうと、悲劇にしかありません。

通報ではなく、例えば警備会社と契約して、ボタンを押せば来てくれるサービスを活用してもいいです。

モノを壊したときは、自分で直さずに、必ず業者を呼び、跡形もなく直してください。一部に、見せしめ目的で、壊した所をそのままにする人がいます。これは逆に、次の破壊を誘発します。いわゆる「破れ窓」理論です。家がボロボロになると、敷居が下がって、暴れやすくなる。必ず、毎回、直後に業者を呼んで、キレイに修復してもらっただけでも、かなり抑止効果が上がります。専門家以外にも介入できる人はいっぱいいます。警備員、業者など、どんどん家に入ってきてもらうことを考えてください。

ファイナンシャルプランナーも

ファイナンシャルプランナー（FP）を活用して、暴力が収まったケースもあります。FPを家に呼び、資産状況や収入などをエクセルにまとめてもらって子どもと共有した。その過程で、いつまで養えるか、介護はどうするのかといったライフプランから相続まで、すごく切実なお金の問題を、本人も参加して話すうちに、暴力が止まったといえます。通報や避難をためらう方は、まずFPを試みてみるというのもいいと思います。多くの親は、子どもに金の話をしたがらないですが、やってみると意外と真面目に聞いてくれ、資産状況などが分かってくると、暴力よりも別の方向で考えていこう、と流れが変わることもある。いきなり「病院に行きましょう」という提案よりは、聞いてくれる可能性が高いと思います。（つづく）